

# 金曜 ライフ・楽しむ

シニア世代を応援するページです

## ラグビーW杯 スポーツもっと盛んに

# わたし色

生活情報誌「悠悠と。」

編集長・真鍋康利さん



我が北海道では、プロ野球「北海道日本ハムファイターズ」、サッカーJリーグ「北海道コンサドーレ札幌」、バスケットボールBリーグ「レバンガ北海道」などいろいろなスポーツで熱戦が続けられています。

冬のスポーツでは、アイスホッケーの「日本製紙クレインズ」が廃部となりましたが後継のチームが内定、スキージャンプも本場として非常に盛り上がります。春夏の高校野球、夏のマラソンなど、春夏秋冬様々なスポーツが道民を熱狂させてくれます。

そんな中、今秋、9回目となるラグビーW杯が日本で開催され、札幌ドームでも9月21日にオーストラリア対フィジー、22日にイングランド対トンガと大変魅力的な対戦が行われます。日本代表は前回2015年イングランド大会では、予選リーグでスコットランドに負けたものの、強豪の南アフリカ、サモア、アメリカに勝利し、日本中がその活躍に沸きました。

野球やサッカーに比べ、ラグビーは少しなじみの薄い競技ですが、せつかく間近で本場のプレーが見られるのですから、テレビ観戦ですが、大いに楽しみたいと思います。

先日、この4年に1度の大会イベントを支える北海道ラグビーフットボール協会W杯準備委員会委員長の丹羽政彦さんにお話を伺う機会に恵まれました。思ったより小柄で、俊敏な動きが求められるウイングとしての活躍がよく分かり、その熱弁に圧倒されました。

丹羽さんは苫前町出身。羽幌高校時代に北海道遠征中の当時明治大学ラグビー部北島忠治監督に見いだされ、名門明大に進み大活躍。清水建設でも主将としてリーディングを發揮し、13年から5年間は明大ラグビー部監督を務め

られました。

「ラグビーの基本はラグビー憲章にある品位、情熱、結束、規律、尊重の五つの言葉だ」とおっしゃる丹羽さんにW杯の見どころに続き、今後の夢をお聞きしたら、このW杯を一過性のものにせず、ラグビーだけでなく、北海道のスポーツ振興のきっかけにしたいとのこと。これは大賛成です。いろいろなスポーツの合宿が各地で行われる北海道です。スポーツの聖地北海道、カジノより100倍はよさそうです。鈴木知事、いかがですか。

9月の本番はチケット入手が難しそうなので、6月2日に行われる招待試合「パナソニックワールドナイツ対トヨタ自動車ヴェルブリッツ」を観戦する予定です。世界では札幌ドームのような屋内でのラグビーの試合は珍しいとのこと、大変楽しみです。